

研究通信

第 81 号

1972年7月刊
村落社会研究会
事務 局

◇
白梅学園短期大学
社会学研究室
(11研) 内

村研二〇回大会について

去る五月三〇日に開催の第三回合同委員会において、二〇回大会の共通課題ならびに期間・会場予定地が左の如く決定しました。

◇ 共通課題「日本社会における村落と都市」

すでに通信七九号でお知らせした委員会原案、①近代日本社会における村落と都市、②二〇年の成果と課題、の二案について、会員の方々からのアンケート結果に基き検討を行なった。後出のアンケート一覧に明らかのように、右の二つの原案のうち①の支持者がより多くを占めており、また委員会でも②については、実際に適当な大会報告者や年報執筆者が得られるかどうか疑問であるとの意見が出され、結局①の方向に焦点を合わせて考えることになった。

まず、原案では「近代日本……」となっているが、ここで「近代日本」と限定した場合に、「現代日本」との係わりが不明確であり、したがって、近代以降現代までをも含む意味での「日本社会……」と改める必要がある。さらに、「……村落と都市」の問題については、村研であるから当然、村落社会を直接の、主な対象とする課題だという前提に立つものであることが確認された。もちろん「都市」と「村落」を同一のレベルで扱うのではなく、あくまでも「村落」を考察の主体とし、「村落」が「都市」からいかなる規定をうけ、また「村落」が「都市」にどのような影響を与えているか、すなわち村落社会を分析するなかで「都市」がいかにうにかかわってくるのか、といった程度の位置を「都市」は占めるだけである。

こうした限定が委員会において明瞭にされたりえて、冒頭に掲げたように「日本社会における村落と都市」が共通課題と決定された。なお、共通課題としては焦点が必ずしも明確ではないきらいもあるが、今後の大会で次第に年々問題をしぼっていくこととし、ゆるやかな課題の枠内で、できるだけ多くの会員が報告し、全員が議論に参加できるようにすべきだという考えが委員会の大勢を占めた。

◇ 期間 昭和四七年一〇月一日(水)・一二日(木)

開催予定地 千葉県鴨川市 国民宿舎「望洋荘」

本年度大会開催地は、はじめ東京近郊を予定していましたが、都

心に近いと深夜に及ぶ例年の討論が危ぶまれるし、大気汚染もひどいので、都心を離れ、房総半島の尖端を選びました。場所は、千葉県鴨川市にある国民宿舎「望洋荘」を予定しています。この宿舎は、内房・外房線の終着駅「安房鴨川駅」下車、鴨川湾に面し、外房の海を一眺できる景観地にあります。

いづれ、出張依頼書を添えて、詳しいご案内とご出席の問い合わせをいたします。大会の日程は、一〇月一日(水)・一二日(木)の両日です。今からこの日時を優先的に確保して下さいますようお願いいたします。 (図書館短期大学・柿崎)